

# 藍の都

地域の方々と共に育む、  
当院がお届けする健康だより

# いるか通信

Vol.6

Take Free

A I N O M I Y A K O D O L P H I N N E W S L E T T E R

## INDEX

- P.1 •中国に佐々木脳リハビリセンターが2019年7月開院!!
- P.2 •名誉院長就任のご挨拶
- P.3 •ニューロリハビリテーションセンター長 副院長のご挨拶
- P.4 •救急部長就任のご挨拶
- P.5 •脳神経外科副部長 小林紀方先生にインタビューをしました!
- P.6 •脳神経外科副部長 就任のご挨拶
- P.7 •心臓と血管の病気⑤ ~『息切れ』について考える(その2)~  
•技術指導ワークショップ開催
- P.8 •「患者様」から「同僚」へ
- P.9 •NEURO®の認定を受けました
- P.10 •学会発表してきました  
•JRおおさか東線で新大阪~放出間が  
便利になりました



山平浩世循環器内科部長カテーテル手術



日中合作 杭州佐々木脳リハセンターにて



栗林厚介脊椎脊髄センター長執刀手術



# 中国でも 藍の都水準の 脳卒中リハビリテーションを!

## 佐々木脳リハビリセンターが2019年7月開院!!

こんにちは、理学療法士の西岡と申します。この度、2019年7月29日に社会医療法人ささき会は、中国浙江省杭州市に本拠地を持つ、和康医療投資管理会社(和康グループ)と合作で杭州市九和病院内に佐々木脳卒中リハビリセンターをオープンしました。

日本で「医院」というと「診療所」をイメージされるかもしれませんが、中国では「病院」のことです。500床規模の病院の1フロアに当院があります。

実は中国でも日本と同じく少子高齢化が目前に迫り、急ピッチで医療と介護の整備に力を入れています。今回、我々の目的は、日本式リハビリテーション及び看護、介護の技術導入です。また、当院がこれまで日本で培ってきた最先端リハビリテーション機器やボツリヌス治療を積極的にできればと考えています。

先端リハビリ機器のrTMS(反復性経頭蓋磁

気刺激療法)については、開院初日より本格始動しており、初日から3人の患者様に施行しました。このrTMSですが即時効果があり、中国の患者様にも大変ご好評をいただきました。現地の関係者の皆様の期待も大きく、国際貢献できればと考えています。

中国の看護およびリハビリテーションスタッフは定期的に日本で研修を行い、「中国でも藍の都水準の脳卒中リハビリテーションを!」を合言葉に、中国スタッフたちと一緒に日々研鑽しています。日本での研修の折には、何卒ご協力のほど宜しくお願い致します。



杭州九和医院  
佐々木脳リハビリセンター  
センター長 西岡 将



開院式にて 佐々木庸理事長と和康集団钱培鑫董事長



中国初のTMS実施です!

# 名誉院長就任のご挨拶

出身地:愛知県  
趣味:園芸・テニス・アコーディオン

出身大学:大阪大学  
モットー:全人的医療

名誉院長 脳外科  
長谷川 洋



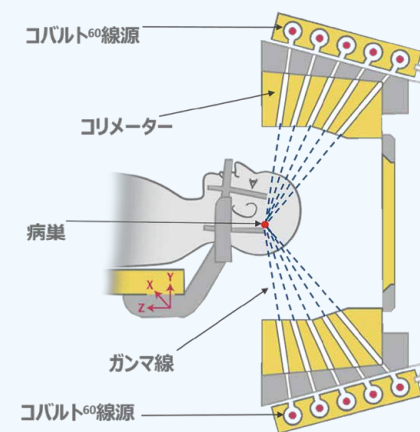
皆様初めまして。この度、藍の都脳神経外科病院名誉院長を拝命しました長谷川と申します。

私は大阪大学医学部を卒業後2度の米国留学を終えて、旧大阪厚生年金病院(現地域医療推進機構大阪病院)に24年間、富永病院に16年間勤務し、脳外科医として手術に携わってまいりました。

私の主な研究テーマはガンマナイフ治療、脳腫瘍の手術と脳腫瘍病理学であります。

ガンマナイフは少し馴染みのない言葉であると思いますので、ここで少し説明を加えたいと思います。これは定位放射線治療の一種で、頭蓋内のある決められた一定の場所に集中して放射線を照射する方法です。

富永病院で使用しているガンマナイフは図のように、放射線の一種であるガンマ線を放出するコバルト60が約200個、頭の周囲360度に配列しており、コリメーターと呼ばれる細い金属製の管を通った線状の放射線が1点に集中するような構造になっております。



長谷川名誉院長指導参加 佐々木院長執刀

治療の対象となる疾患は良性、悪性の脳腫瘍、動静脈奇形、三叉神経痛です。この治療法は正常の組織を避けて病変にのみ高線量を照射できることで、どの疾患も90%前後の高い治療効果を得ることができます。

通常1回の照射で治療が終了しますので、従来の放射線治療に比べ、入院期間も短くしかも再治療が可能です。

ですから再発した転移性脳腫瘍の患者様も再治療が可能です。従来10個を超える転移性脳腫瘍の治療は困難でしたが、最近の装置の進歩により、30個を超える症例も治療が可能となりました。脳腫瘍や脳動静脈奇形の開頭術は大きな危険を伴うものですが、ガンマナイフの危険性は非常に少なく、治療後急変することはまずありません。このため聴神経腫瘍などの治療は今やガンマナイフが第一選択となっています。ガンマナイフの最大の欠点は病変部固定の必要性から、頭部の疾患しか治療ができないことです。

この治療に関して興味のある方は、来院時お気軽にお問い合わせください。その他私は脳外科疾患の種々な問題や、治療困難な脳外科疾患のセカンドオピニオンの受付も行っております。

私がこの病院に就任して気づいたことは病院の職員が若く、佐々木院長の手腕により病院が急速に拡大発展していることです。

私も脳神経外科の専門医として長年培ってきた医療技術や経験を基に、病院の将来のさらなる発展に貢献ができますよう、日々努めて参りたく存じます。これからも一層のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



# ニューロリハビリテーションセンター長 副院長のご挨拶

センター長・副院長  
原 寛美



出身地:長野県  
出身大学:京都大学  
趣味:ワインとドライブ

モットー:自分の人生を物語として見るとき、さしずめ「主人公」は自分ということになるが、それが一番大切な存在ではないことを知ることによって、その物語が深みをもつ。主人公としているいと体験をしながら、自分よりも大切な存在とは何かを常に問いかける姿勢を持ち続けることによって、たとえ答えは簡単でなくても、人生が豊かになる(河合隼雄)

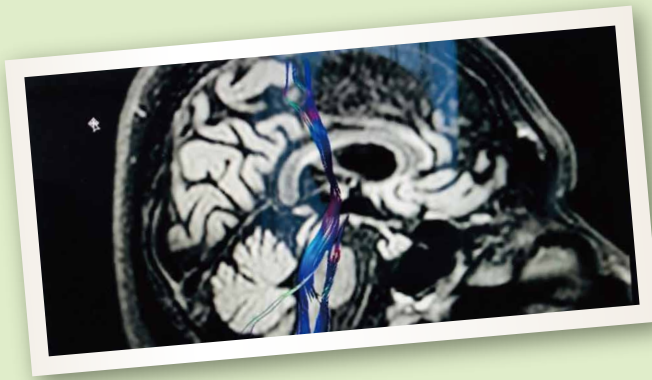
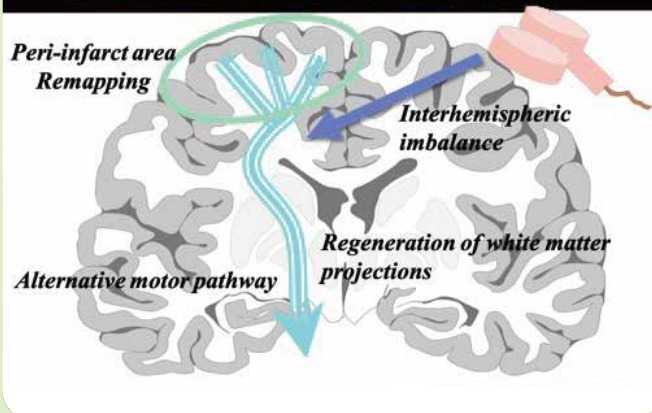
9月より藍の都脳神経外科病院に勤務しているニューロリハビリテーションセンター長の原寛美です。1979年に京都大学医学部を卒業し、東京大学医学部附属病院リハビリテーション部、相澤病院(松本市)リハビリテーション科、東京リハビリテーションセンター世田谷センター長などを歴任してきました。卒業40年になりますが、日本リハビリテーション医学会専門医・指導医として、脳卒中リハビリテーションと高次脳機能障害の診療を専門領域としてきました。

リハビリテーションの最もニーズの高い脳卒中では、その発症率は470人/人口10万人・年とされています。急性期の血栓溶解療法や血栓回収術など、治療技術は著しく進歩しています。しかし多くの方に運動麻痺などの症状が残るため、脳卒中リハビリテーションの重要なテーマは、いかに運動麻痺の改善をさせることができるかです。

この10年間で脳卒中後の運動麻痺を改善するためのリハビリテーション医療は、大きく変化してきました。運動麻痺を回復させるためには、発症からの時間的枠組み(Time Window)の中で、効果的なリハビリを開始していく重要性が明らかとなっています。そして、歩行の能力と、上肢・手指の運動機能は異なる神経支配であるために異なるアプローチが必要となり、異なるリハビリの期間設定が必要となることも分かってきました。また、痙縮という運動麻痺の回復を阻害する症状に対するボツリヌス治療と言う方法が普及してきました。さらに、ニューロモデュレーションと言われる経頭蓋磁気刺激(TMS)治療などの脳組織を刺激する手法も導入できるようになってきました。こうした理論と方法論に依拠する領域がニューロリハビリテーションと呼ばれるようになりました。

脳卒中後の運動麻痺を説明できる脳画像の一つとして、拡散テンソルトラクトグラフィ(下図)と言う手法があります。それにより運動神経の損傷を客観的に可視化できるようになりました。このような新しい評価法と治療方法を藍の都脳神経外科病院に導入することで、運動麻痺の回復に寄与できれば幸いです。

## NEURO-REHABILITATION CENTER Ainomiya Neurosurgery Hospital, Osaka



# 救急部長 就任のご挨拶

出身地:宮崎県  
出身大学:琉球大学  
趣味:仕事(当直)  
モットー:24時間365日受け入れ可能な救急外来を目指します



救急部長  
山下 晋

昨年9月より藍の都脳神経外科病院に救急部長として参りました山下です。わたくしは脳神経救急を兵庫県北部の公立豊岡病院にて脳神経内科医として手ほどきを受けたのち、大阪難波の富永病院にて脳神経外科医として学ばせていただきました。

昨年、赴任して間もない頃、救急で搬送された患者様が「知らない病院に来た。」と不安でいらっしやとところ、救急隊員の方が「ここは頭で有名な病院ですよ。もう安心ですよ。」と患者様とその御家族に話しかけておられました。開院からわずか10年足らずで病院の評判をここまで得ていることに驚くとともに、今後も地域の住民の皆様や救急隊員の方々の信頼を失わないよう努めていかなければならないと気持ちの引き締まる思いでのスタートとなりました。

さてこの病院はどのようにして、このような評判を得るに至ったのだろうかと思い、しばらく観察してみることにしました。最初に気づいたことは小児の頭部打撲の救急受診の多いことでした。時には一日の救急受診の半数が小児の頭部打撲ということもあります。鶴見区だけでなく、大阪市全域さらには大阪市外から受診されることもあります。お子様が頭を打ち、どうしてよいか判らず、救急車を呼ぼうかと迷われて安心センターに電話をすると当院をご指名で案内してくれることもあるそうです。開院以来、鶴見区は子育て世代の多く住む町と捉えて、積極的に小児の頭部打撲の診療に取り組んできた成果と考えており、今後もこれを引き継いで、「すぐに診てもらえた。」とっていただけるように努めていきたいと思っています。

昨年末はひと月で十数件のくも膜下出血の入院があり驚きました。救急隊員の適切な判断の賜物と思い、近隣の救急隊に感謝の気持ちでご挨拶に伺ってみました。すると、とある救急隊の方から、「脳卒中を疑う患者様の救急要請を受けたときは、私たちにとって藍の都は駆け込み寺なんです。すぐに受け入れてもらえるから。」との言葉をいただきました。また「頭部疾患を疑ってもなかなか受け入れ先が見つからないとき、藍の都が最後の砦なんです。お宅に断られ

たら路頭に迷いますよ。」とも言っていただきました。開院以来、開頭手術と血管内治療の二刀流で脳血管障害に挑み続けてきた病院への評価であり、それをもとに築かれた救急隊との信頼関係を肌で感じる事ができました。今後も、「速やかに治療してもらえた。」とっていただけるように迅速な救急受け入れに努めていきたいと思っています。

かかりつけの患者様が、救急搬送で来られることもあります。「この前は、この病院に運んでもらったおかげで元気に元の生活に戻れた。また、お願いしますよ。」と、よく耳にします。藍の都では超急性期治療から、回復期リハビリテーション、通院通所リハビリテーション、デイサービスまで、患者様が元の生活に戻れるように努めております。この一貫した治療の入り口として救急外来があります。今後も、「元気に元の生活に戻れた。」とっていただけるように努めていきたいと思っています。

藍の都に赴任して、しばらくして聞こえてきた患者様の声は、「すぐに診てもらえた。速やかに治療してもらえた。元気に元の生活に戻れた。」でした。今後も、そう言ってもらえるように努めていきたいと思っています。

24時間365日受け入れ可能な病院を目指します。おかしいなと思ったら夜中でも結構ですから、朝まで待たずに来てください。速やかに診察させていただきます。検査を受けて何も問題なく帰宅できたら、それが一番良いことです。から、ためらわずにいらしてください。



(左)佐々木院長指導参加 (右)山下救急部長執刀



令和元年8月1日よりご就任

# 脳神経外科 副部長 小林 紀方先生にインタビューをしました!



出身地:兵庫県 出身大学:神戸大学  
趣味:息子達に遊んでもらうこと  
モットー:ひとりでもやる、ひとりでもやめる

**Q1** まずは先生のご専門・ご略歴について教えてください。

専門は脳神経外科です。脳卒中の開頭手術とカテーテル治療です。

兵庫県西宮市生まれで中学～大学は神戸、医師になってからも主に関西にいましたが、秋田に5年間、東京に2年半、その後また関西に戻ってきました。

**Q2** 脳神経外科をご専門とされた理由は何でしょうか?

高校時代に怪我をしてお世話になった整形外科の先生がとてもいい先生だったので、最初は整形外科医になりたいと思っていました。最終的には神経系に興味を持ったこと、手術がしたいと思ったこと、来てほしいと言ってくれたのが脳神経外科だったことで決めました。

**Q3** 秋田に行かれたのには何か特別な理由がございましたか?

当時僕が医師になったときは今と違って臨床研修制度がなく、多くの人が卒業後は出身大学の医局に入る、言うなれば、医師としての将来がその大学の中で決まっていたように思います。僕も進路について悩んでいた時、ちょうど秋田脳研(現 秋田県立循環器・脳脊髄センター)が研修医を募集していました。その時代としては珍しかったのですが、トレーニングをして手術の指導を受けられるという内容でとても興味を持ち、最終的に行くことになりました。



(中央)小林副部長執刀 (右)佐々木院長指導参加

**Q4** 企業に勤めておられたご経歴があるそうですが、どのようなことに取り組まれていたのでしょうか。

友人らとともに起業しました。会社の事業の中心は、てんかん発作予知の仕組みを作るというものです。心電図データから機械学習という手法などを用いて、発作前に患者さんに知らせるといった仕組みです。もともと脳外科の手術の機械を作りたいと思っていたのが根底にありました。

**Q5** ここまでのお話のどこかに、当院で診療されることとなる契機が隠れているわけですね?

佐々木院長は神戸大学の経営大学院の先輩で、お名前は存じあげてはいましたけどお会いすることは全くなくて、たまたま学会で共通の知人を介してご挨拶をする機会がありました。なかなか経営大学院に行かれている脳外科医は少ないので、一度お話を伺いたいとお願いしたことがきっかけで現在に至っています。

**Q6** 当院ではどのようなことに取り組みたいとお考えですか?

「必要な人に、必要な医療を届ける」ということを自分の中で大事にしようと思っています。多くの患者さんがいろいろなことを心配されて外来へいらっしゃいますが、安心のために必要な検査を行うこともありますし、一方でお子さんのCT検査のように将来にわたって被ばく影響があると考えられる場合には、診察したうえで今回は検査はしないでおきましょうということもあります。

他にも貴重なお話を沢山していただきましたが、今回はその一部を抜粋しました。気になる方は小林副部長の外来をご受診されてみてはいかがでしょうか。

インタビューア:理事長総務室 広報担当

# 脳神経外科副部長 就任のご挨拶



脳神経外科副部長 森田 寛也

出身地:兵庫県 出身大学:神戸大学  
趣味:旅行 モットー:生涯学習

令和元年6月1日より、当院脳神経外科副部長として着任いたしました森田寛也です。

脳神経外科の扱う領域は非常に多岐に渡りますが、近年ではそのなかでも特に脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血を総じてそう言います)の治療において大きな転換期を迎えています。

これまで脳梗塞になってしまうと急性期に有効な治療法は乏しく、長い時間をかけてリハビリテーションを頑張っていたくしか後遺症を軽減させることは難しい状況でした。そこにt-PA静注療法という薬物治療が始まり、最近ではカテーテルによる血栓回収療法という手術も始まりました。残念ながら、これらの治療が対象となる患者さんはまだ全体のごく一部でしかありませんが、それでもいよいよ急性期から症状を劇的に改善できる可能性が出てきました。

当院ではこの手術を行う脳神経血管内治療専門医(常勤医)が私で4人目となります。これだけの人数のいる病院は全国的にもまだまだ少なく、一人でも多くの患者様のQOLを維持するために日々努力を続けております。

また、脳神経外科の分野においても内視鏡手術が広がりを見せております。例えば脳出血に対してこれまでは大きく頭を開けてしか手術できなかったものが、500円玉程度の小開頭で行えるといった場合もあります。私はこれまでに20例以上の内視鏡手術を経験しており、当院でも内視鏡手術の導入に向けて調整を始めております。こちらはまだまだ適応となる疾患は限定的(脳出血、水頭症など)ですが、疾患・治療法に関する質問など遠慮なくご相談ください。

これから地域に根付いた脳神経外科診療に努めていきたいと考えておりますので、よろしくご挨拶致します。



(左)佐々木院長指導参加 (右)森田副部長執刀



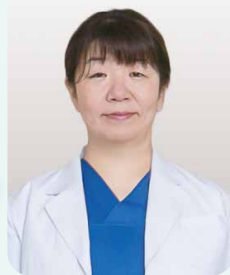
(左)矢野副部長執刀 (右)森田副部長助手参加



# 心臓の血管の病気 ⑤

## ～『息切れ』について考える(その2)～

今回は前回に引き続き、『息切れ』が起こる病気についてお話しします。テーマは「心臓以外で息切れの起こる病気」です。それは肺の病気である呼吸器疾患や、貧血などの血液疾患です。



循環器内科 部長  
山平 浩世

### 1) 呼吸器疾患

肺は心臓と非常に密接な関係があります。肺は空気中の酸素を取り込み、不要となった二酸化炭素を体外へ排出します。酸素を多く含んだ血液は、心臓を経由して、全身へ送られます。ところが、その酸素がうまく取り込めないような肺の状態であると、酸素が不足して息切れが生じます。

代表的な病気としては、肺炎、胸膜炎、慢性閉塞性肺疾患、肺気腫などです。

肺炎・胸膜炎などは、治療をすることにより多くは改善しますが、慢性閉塞性肺疾患や肺気腫は、主にタバコを吸う方に多いのですが、肺の中の小さな袋(肺胞)が壊されるために酸素と二酸化炭素の交換が十分にできないため、完治することは難しく、在宅酸素療法と言って酸素ボンベを日常的に使用する必要があります。**禁煙はととても大事です!!**

### 2) 血液疾患

血液は酸素を運ぶのにとっても重要です。血液中の赤血球が酸素を運びます。この赤血球が少なくなると、いくら肺に酸素があっても運べないので息切れが生じます。これを貧血と言います。

貧血の原因は加齢や栄養不足(鉄、ビタミンなど)だけでなく色々あるので、必ず病院で検査を受けるのが望ましいです。

息切れの受診の目安は、一般的にはMRC息切れスケールのうちグレード2です。でも気になることがありましたらお気軽に受診してくださいね。

## 呼吸困難の程度

(MRC息切れスケール)  
呼吸困難の程度を把握することで、治療方針の決定に役立ちます。



独立行政法人 環境再生保全機構HPより [https://www.erca.go.jp/yobou/pamphlet/illust\\_dl/index10.html](https://www.erca.go.jp/yobou/pamphlet/illust_dl/index10.html) illustration: irodori



## 技術指導ワークショップ開催

当院では下肢閉塞性動脈硬化症(足の動脈がつまる病気)に対しての治療も行なっています。去る8月9日(金)、春日部中央病院(埼玉)の安藤 弘先生に技術指導のためお越しいただき、ワークショップを行いました。当日は近隣の先生だけでなく、遠くは仙台からも学びに来られました。

お二人の患者様は約5年以上、歩行時に短時間しか歩けない状態でしたが、完全閉塞した血管に対してカテーテル治療を行なっていただき、術後は症状がなくなり喜んでおられました。

# 「患者様」から「同僚」へ



私は脳出血を患い、半年間の入院後、今の職場で働くようになりました。

入院当初、以前の職場の上司に、「退院後、復職したらいい」と言って頂きました。復職することは、障害者の身で働いている自分を想像し易いという利点があり、また後遺症が残る事を加味した上で復職を提案されたことは単純に嬉しかったです。

でも、それと同時に不安もあり、以前の職場は生活リズムが不安定なので、脳出血を再発する可能性が高いのではないかと考えました。

そこで、復職の話は一旦保留してもらい、新しい職場を探すことも視野に入れ始めました。その後、ソーシャルワーカーの方へ相談したり、ハローワークの障害者求人を調べました。その中で、職種や正社員募集の少なさ、後遺症が残る身体での就職活動の大変さが容易に想像できてしまい、新たな不安が生じました。

そんな時、職探しをしていることが院長の耳に入り、「うちのデイサービスで働いたらどうか」という提案を頂きました。脳卒中リハビリ特化型であることから、同僚からの理解がある。もし身体に何かあっても迅速に対応してもらえる。これらは大きなメリットだと思いました。何より、利用者の方々への理解・共感が出来ることが大きな武器になる点、そしてこれまでのリハビリが誰かの役に立つかもしれない点が、今の職場で働く決め手になりました。「誘いを断るのは悪いことじゃない。これだと思った道に進むのが一番いい。」という言葉してくれた方もいました。自分が周りに支えられ、助けられて生きているのだと思いました。

今後、自分自身でもどうなっていくのかはわかりませんが、この場所で頑張っていきたいと思っています。

彩りの都デイサービスセンター城東永田  
長沼 功典

長沼君とは回復期病棟において「リハビリ担当と患者様」という関係から、「職場での同僚」というつながりに変化し、現在に至ることがとても不思議な気分です。デイサービスの取り組みの1つに「復職への取り組み」がありますが、まさにその答えの一つではないかと感じています。入院中からのリハビリ練習への真面目な取り組みさながら、業務に取り組んでくれています。当事者だから知りえること、くみ取れる思いなど、自分にしか出来ない利用者様とのかわりをしてきています。

彩りの都デイサービスセンター城東永田  
センター長 唐渡 弘起





# NEURO<sup>®</sup>の **認定**を受けました

当院がNEURO<sup>®</sup> 連携医療機関として認定を受けました。

NEURO<sup>®</sup>とは、(NovEi Intervention Using Repetitive TMS and Intensive Occupational Therapy)と、(NovEi Intervention Using Repetitive TMS and Intensive One to one training)の総称で、経頭蓋磁気刺激装置(以下、TMS)研究の世界的権威である東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座の安部雅博教授グループが世界に先駆けて考案した、脳卒中後の上下肢運動麻痺や高次脳機能障害等に対する革新的治療方法です。NEURO<sup>®</sup>は、TMS治療と集中的なリハビリを併用して行うことで、機能回復をより長期的なものにしようとの考えから開発された治療方法です。

TMS治療とは、コイルを用いて、頭の外側から大脳局所を磁気で刺激する治療法です。患者様は安静にしているだけで、痛みや苦痛をほとんど伴うことはありません。TMS治療は、障害により生じた脳機能のアンバランスを修正するものであり、患者様の症状に合わせて磁気刺激の部位や刺激量

を変え、障害を受けた脳機能が活発に起きるようにする治療です。これは、新しい概念である『ニューロ・リハビリテーション』の概念に基づき、脳のもつ回復力を最大限に引き出そうとする治療方法として、世界的にも非常に注目され確固たる治療法となっています。

現在、日本ステミュレーションセラピー学会認定施設のみ提供できているNEURO<sup>®</sup>ですが、当院は2019年4月より、上記2つのNEURO<sup>®</sup> 施行施設の認定を受けました。



リハビリテーション部 主任  
彩りの都デイサービスセンター城東永田  
センター長 唐渡 弘起



2階病棟 看護師  
小林 愛実

## 学会発表 してきました

7/20・21に行われた全国学会で「t-PA・血栓回収術 時間短縮に向けた取り組み」という演題で発表しました。t-PA・血栓回収術とは発症して間もない脳梗塞に対する治療・手術のことで、当院でも力を入れている治療の一つです。時間に制約があり、1分1秒でも早く治療を開始することで脳へのダメージを最小限にし、その後の後遺症が軽くなることに繋がります。そのため看護師のみならず、治療に関わる医師・放射線技師など全てのスタッフと協力し取り組んでいます。

初めての学会発表で緊張と不安でいっぱいでしたが、いろいろな病院の治療の動向や取り組みを聞くことで当院の良い所・改善すべき所を客観視でき、自身の成長に繋がる機会となりました。

経験したこと・学んだことを活かし、これからも患者様ファーストで頑張りたいです。

## JRおおさか東線で 新大阪～放出間が便利になりました

2019年3月よりJRおおさか東線の放出駅と新大阪駅が結ばれました。

これにより阪急京都線・千里線、京阪本線などをはじめ、大阪メトロ御堂筋線、谷町線、今里筋線との連絡が可能となり、従来の放出駅以南(奈良方面)からのアクセスだけでなく、北区間とのアクセスについても利便性が向上しましたので、ご案内致します。

理事長総務室



## 理事長挨拶

開設火入れ以来8周年を迎えることが出来ました。これもひとえに厚いご信頼頂いている患者様ならびに患者様ご家族のご協力あってのことと感謝しています。職員を代表し御礼申し上げます。今年うれしい想定外としてハートある5名もの医師がチームに合流頂きました。熟練の医師だけでなく将来を担う若武者も参加頂き、開設二年目からの一番の古株の矢野達也脳神経外科副部長(年齢は若いですが)、栗林厚介脊椎脊髄センター長、山平浩世循環器部長と相まって良質で大きなマンパワーの増幅を感じています。

当然のことながら11月には一次脳卒中センターにも選出頂きました。今後は、脳腫瘍疾患への治療レベルの向上を図っていくとともに、2024年頃に整備選定される脳血栓回収センターに選出頂くようチーム一丸となって研鑽していきたくと思っています。

また国際貢献プロジェクトとして、中国杭州に和康医療集団と合作で佐佐木脳リハビリテーションセンターを開設し、中国で未だ普及していないボツリヌス治療を含む痙縮治療や回復期脳リハビリテーションでの現地貢献にも参加しています。

今後とも患者様ファーストへのチームの想い(DNA)は薄めることなく、大阪東部地区でなくてはならない病院に成長していきたいと願っています。職員一同日々研鑽して参りますのでどうか今後ともご指導ご鞭撻の程お願いいたします。



理事長・院長 佐々木 庸 いさお

### 主たる資格等

#### 【医学部系資格】

日本脳卒中の外科学会技術指導医  
日本脳卒中学会指導医  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳神経血管内治療学会専門医  
日本ステイミュレーション学会 理事  
日本ボツリヌス治療学会 理事

#### 【経営学部系資格】

経営学修士  
(神戸大学経営学部大学院MBA)

■厚生労働省公式ホームページ内「医療施設の経営改善に関する調査研究(平成29年度)」

<https://goo.gl/7z7Zzc>



患者様ならびに  
患者様ご家族の皆様へ

当院では医師やスタッフへの謝礼金のお受け取りは固くお断りしております。一方で当法人への寄付金については、理事長総務室を窓口にお受け入れをさせて頂いております。当法人のハートある医療提供への取り組みにご賛同ご支援いただけましたら幸いです。

社会医療法人ささき会 藍の都脳神経外科病院 院長

お問い合わせ先 理事長総務室 06-6965-1805(直通)

### 〈診療のご案内〉

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00 (受付 8:45~11:30)	○	○	○	○	○	○	△
14:00~17:00 (受付 13:30~16:30)	○	○	○	○	○	○	△

■診療日：月～土曜日(土は午前中診療)

■休診日：日曜・祝日・年末年始(12/30~1/3)

◎救急外来は24時間診療です。※診療科により異なる場合があります。

〈面会のご案内〉 平日 14:00~20:00 / 土日祝 11:00~20:00

ICU・SCU 14:00~15:00と 19:00~20:00



社会医療法人 ささき会

## 藍の都脳神経外科病院

AINOMIYAKO NEUROSURGERY HOSPITAL

大阪市鶴見区放出東2丁目21番16号

Tel.06-6965-1800 FAX.06-6965-1600

URL: <http://www.ainomiyako.net>



\*JR放出駅北口より徒歩5分